



右: 穴田さん

中: 元十日講組門徒会長村本さん
左: 小松教務所所長

「仏教の御利益とは、思いがけない幸運のことではなく、逆境に向き合ったときに苦難を受け止める力を持つことである」
そのためには平素から仏の教えに触れておくことが必要である。

藤野宗城 師

苦をまぬがれるには、その苦しみを生かしてゆく道を学ぶことです。

蓬茨祖運 師

穴田さんは、平成23年から十日講組の世話方としてご尽力いただいている。27年から3年間は、同組の会長も務められた。

川北町の一部は、相続講金が小松教区へ収納されている。特に田子島は金沢教区の寺院

お同行さん

どうぎょう

あなたの隣の門徒さん

川北町田子島 穴田 功さん (83)

聞法とは何か、聞法の場に身を置くとはどういうことか、ということを改めて問われる機会となつた。

聞法とは何か、聞法の場に身を置くとはどういうことか、ということを改めて問われる機会となつた。

広報委員 林 拡



おしゃかさのぶたんじょうび

花まつり

3月31日(火) 9:30~14:00

式典~白象パレード
昼食~レクレーション

称名寺
小松教務所

大寄おより小寄

真宗大谷派(東本願寺)

小松教務所

〒923-0904

小松市小馬出町26

Tel 0761-22-0555

発行者 池守 章

編集 小松教区教化委員会

を手次寺院とするお宅が多く、募財の難しさを経験してこられた。そんなご苦労の中、聞法をしてこられ、ご自身に響くいろいろな先生の言葉に出会つて来ている。

ここ小松教区は、蓮如上人の時代から「念佛の声が満ちる」場が設けられ、今でも御講が受け継がれ

ている。穴田さんは、私たちの先輩方が命懸けで数々の法難を経ても守り抜いて来た聞法の場を、次へと手渡していくかなければならぬという思いを強くもつておられる。しかし、ご自身は、おっしゃっていたことが非常に印象に残つた。

対談 相続講

小松教区門徒会長 西田 保氏
前十二日講門徒会長 真宗大谷派参議会議長 小松教区会議長 中田 郁夫氏
能邨 勇樹氏

小松教区では、門徒会が主体となって相続講を受け継いできた歴史があります。その重責を担ってきた方々にお話を伺いました。今回は第2回をお送りいたします。

日野 「法義相続」「本廟護持」の受け止めをお聞きしたいと思います。

西田 さきほど中田さんも言われていましたが、全国の正副会長会に出たときに、他の教区の人と全く話が合わないんです。というのは、他の教区では

日野 そういうご苦労は、ほとんど的人は知りませんでした。

などにももつと参加してきてほしい。それで5年ほど前に、自分の北板津組のお寺さんにひとりひとり声掛けをして、今はずいぶん協力していただけるようになつきました。

から、相続講のことを何も知らないんです。それからいろいろ分かってきたんですが、小松教区のお寺はもつと相続講に協力してもいいんじゃないかと。たとえば、北板津組は、毎月18日に組御講を開いていて、その組御講によって相続講が支えられていることを知つてしまい。また、組門徒会の研修

の組御講によつて相続講が支えられる。それに、私は本山の参議会に出ていますが、他の教区から出ている人は自分の手次の寺院からの

推薦がなければ出られません。つまり、住職との信頼関係がなければ出られないわけです。ところが、小松教区は、手次寺に関係なく、門徒会から選ばれるわけです。そこは、小松教区のいいところだと

思います。
中田 「結」というのは、例えば農作業では互いに手伝つたりして助け合う、地域の相互扶助や共同体の結びつきのことです。今の若い人たちには分からぬかも、

能邨 門徒会が自立しているわけですね。

中田 そう、自立しているんです。

西田 門徒が寺に対してものを言いやすい。その点、小松や大聖寺は恵まれています。

中田 だから、組門徒会の役員といつても、手次のお寺がいろいろなんです。そういう門徒会はここだけでしよう。自立しているから、逆に責任をもつて教化事業を行うことができているわけです。

日野 「結」というのは、例えば農作業では互いに手伝つたりして助け合う、地域の相互扶助や共同体の結びつきのことです。今の若い人たちには分からぬかも、

中田 「結」というのは、例えば農作業では互いに手伝つたりして助け合う、地域の相互扶助や共同体の結びつきのことです。今の若い人たちには分からぬかも、

能邨 生活用語でもあるけれど、そのまま仏法の場でも使われているんですね。

ういう習慣がずっと続けられています。

日野 「結」というのは、組御講の中で具体的な組織としてあるのですか。



参議会議長 中田氏



小松教区会議長 能邨氏

能邨 この教区では、手次がどこであろうと、門徒会が独立しているから、本山のことを自分たちでやっている。どちらかといふと、門徒さんは「わしらは親鸞聖人の門徒だ」というイメージを持つていますね。

また、ご門徒がお寺の垣根を越えてお参りされている。非常にオープンな形で、実はお寺は支えられているんだというこ

社会事情が変わつて、今までのようにはいかないのかもしませんが、どうやつてお寺は支えられているのか、どうやつて本山は支えられているのか

西田 私がお世話をするようになつたとき、「法義相続」と「本廟護持」は別の事柄だと思つていたんです。ところが、よくよくお話を聞いていくと、同じことなんだと。

ようになりました。

日野 長年ずっとお世話をしています。維持してこられた原動力は何ですか。

西田 私は親を亡くして35年ほど経ちますが、以来月参りをしてもらつて、いつの間にか三帰依文だけは暗記できました。それと、毎日、家内は朝晩、私は晚にお内仏にお礼を遂げさせてもらうようになりました。私自身の動機は、単純なものでございます。

日野 こうしてお世話をされているのは、奥様の存在、ご両親の死、月参りがご縁ということでしょうか。

西田 それで、本山でもお寺でもどこへお参りに行くにも、家内と必ず一緒に行っています。

日野 能邨さんはいかがですか。

能邨 私が人間関係で悩んだ中で、人に出会えたことかな。同じ悩みの中でも、それを超えておられる方がいたこと



小松教区御講 リーフレット 絶賛配布中

詳しくは教務所へおたずね下さい

※各種詳細につきましては小松教務所までお問い合わせください

【教区教化事業のご案内】

毎月12日午前9時半

【3月】加藤 彰教 氏

白山市 林西寺

【4月】源了恵 氏

仙台教区駐在教導

【5月】西山 郷光 氏

小松教区駐在教導

※3月は、「蓮如上人御忌法要
兼十二日講」となります

◇日曜講座

日曜日午前9時半

【3月】1日・29日

【4月】5日・19日

【5月】3日・17日

※4月からは第1・3日曜日

◇差別問題研修会

日時 4月17日午後1時半

会場 大聖寺教務所

講師 源淳子 氏

◇北陸連区差別問題研修会

日時 5月26日～27日

会場 のとや（栗津町ワ85）

テーマ ハンセン病問題を通して聞く差別と真宗

生きざまを見せてもらい、そこに感動したんですね。こういう人たちが生まれる土壤があり、こう伝えていかなければと思いま

す。理屈だけはどうにもならないんです。やはり、実際に手を合わせ場所がなければ。そして、感動した方は、そこで終わらない。場を作るんです。人を誘つたり、維持していくとなります。新たな場を作るんです。ですから、「法義相続」「本廟護持」というのは相関係していると思います。だから、そこに行けばいろいろな方がいて、すごい先輩に出会える。それが本山であつて。だから本山は大事にしたい、と私は思います。

〔次号へつづく〕

Q 浄土真宗は他の宗教と何が違うのですか？

A 「信教の自由」、「無宗教」と言われるよう、宗教を信じるか信じないかは個人の自由であるかのようです。

しかし、宗教とは信じる人には必要で信じない人には不要という程度のことなのでしょうか。

浄土真宗の教えは、「信じる、信じない」という個人の宗教心を根拠とする教え、「〇〇を信じれば救われる」と個人の信仰心を条件とする教えではありません。人間を、宗教を求めずにはおれない「宗教的存在」であると見出してきた教えです。

昨年「癌で死んでいかなければならぬ」と知り、いよいよ死ぬまで生きたいと感じています」という言葉に出あいました。私たちに「生きたい」との願いを呼び覚まし、そこに「確かに生きているのが人間であります。残念ながら幸せになるための人間の教えでは、その要求に応えることができません。

淨土真宗は、「淨土に生まれんと願え」という仏様からの願いをかけられている者、お念佛を称えるところに確かに生が聞かれていることを教えています。

真宗 Q & A